



西念寺だより 師走号



令和4年12月10日

〒610-0331 京田辺市田辺北里29番地

TEL 0774-62-1027 63-2912 FAX 0774-29-9683

今年も残り僅か、来年も良い年に！

月影のかたぶく磯に みる鴨は 片羽に残る 霜かとやみる
鴨 長明



いよいよ今年も残り僅かとなり、年の瀬や師走など、何となく慌ただしい気分になる言葉を耳にする時季となりました。冒頭の和歌も、冬の寒さを「霜」という季語を使って表現し、鴨の羽替わりの季節である冬をより一層感じさせる歌になっています。このような気候の中で、一年の締めくくりと新年を迎える準備をしていると、やり残したことの多さに、終わりゆく年に一抹の寂しさを感じる今日この頃です。檀信徒の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

平素は寺門運営に何かと御支援御協力いただきまして心より篤くお礼申し上げます。

さて、大晦日の恒例行事といえば「除夜の鐘」。一年の最後の日、大晦日は古いものを捨て新しいものに移る日という意味で「除日」と言われ、その除日の夜に撞く鐘なので「除夜の鐘」と言います。「除夜の鐘」とは、大晦日の夜(=除夜)にお寺の梵鐘を108回撞く行事ですが、なぜ大晦日の夜に鐘をつくのか、そしてなぜ108回なのか、どのような歴史があるのかなど、少しお話ししたいと思います。

まずなぜ大晦日の夜に鐘を撞くようになったのでしょうか。それについては、中国由来の陰陽道から生まれた概念で、鬼門封じではないかとされています。鬼門とは鬼が入りやすい方角で、丑寅の方角のことですが、12月が丑、1月が寅になるため、時空の中でも12月31から1月1日にかけては鬼門に当てはまるという理由から、大晦日の夜に鬼が入り込まないように梵鐘をつくようになったとされています。



ではなぜ108回撞くようになったのでしょうか。一般的には人の心の中にある煩惱を祓うために108回梵鐘を撞くと言われています。108の煩惱については、人間の6つの感覚器官(眼・耳・鼻・舌・身・意)、これを「六根」と言いますがそれに起因するもの、また四苦八苦が由来という説もあり、しく(4×9)と、はっく(8×9)を足すと108というもの、さらに一年(12か月)、24節気と72候を足して108という説など、時代や地域により諸説あるようです。

そして除夜の鐘の習慣はいつ頃から行われているのでしょうか。その起源は中国のお寺で昔から行われていた風習だと言われています。仏教発祥のインドでは梵鐘の起源と結びつくものは無く、梵鐘を仏具として使用していた中国で生まれた風習ではないかという説が有力です。

中国の寺院では、毎月末の夜に鐘を撞いていたそうですが、宋の時代になって大晦日だけになり、日本には鎌倉時代の末に中国から渡来した禅僧が伝え、江戸時代に現在のように多くの寺院で撞かれるようになったそうです。

また正式には107回までを旧年中に、最後の1撞きは新年になってから撞くそうです。



しんと冷え込む闇夜から響いてくる梵鐘の音には、心の中の浄化作用があると言われ、旧年にあった様々な出来事や思いを鐘の音と共に自身の心の中から放出し、清々しい気持ちで新しい年をお迎えいただければと思います。

当山でも、午後11時45分より鐘撞きを始めます。是非多くの方にお参りいただけたらと存じます。

裏面に続く

【お十夜法要を無事に厳修いたしました】

10月29日(土)午後1時よりお十夜法要を厳修致しました。当日は檀信徒様はじめ、御近所の方々、御遠方よりお越しいただいた方など多くの方々にお参りいただきました。

今回も村山栄氏ら5名の方々の御協力を得て、献灯献香献花をはじめ、新音楽法要曲を取り入れた形式で執り行い、御参加いただいた皆様方からは荘厳な雰囲気であった等の感想をいただきました。

法要の後、ピアノとエレクトーンの指導者で作曲や演奏家としても御活躍されている城田亜澄氏にお越しいただき、トップレベルの演奏と爽やかな笑顔やトークに魅了され、拍手喝采の中、無事終わることが出来ました。

なお、今回も菱田恵・佳世氏ご夫妻に製作いただきました御朱印を皆様にお授けいただき、何よりの参拝記念となりました。

また城田亜澄氏の御厚意で、当日演奏された楽曲のCDを皆様に配布できるようになりました。御希望の方は御連絡をお願いします。



お十夜法要回向寄進者

橋本 均	北川 康夫	山村 雅信	田邊 浩行	北川 仁一朗
下村 新一	西川 泰夫	吉田 勲	香村 侃彦	北川 雄介
西川 良市	橋本 裕嗣	北川 司郎	大崎 三郎	安岡 隆司
西川 明裕	北川 晴雄	北川 雅彦	鈴木 肇	西川 君子
西川 秀司	末田 新三	西川 實	大崎 勲	上村 勉
北川 新吾	北川 昌昭	荒木 忍	中西 廣康	小西 正明
國田 清	田邊 邦彦	橋本 幸昭	菱田 孝子	奥田 道男
米山 絹代	中村 ふたみ	森田 俊次	佛教婦人会	(敬称略 順不同)

【院号料御寄進のお知らせ】

今回は逢坂俊夫様より逢坂 良様の御逝去に際し、院号(卍卍物)料の御寄進をいただきました。逢坂良様は書道や和裁を得意とされ、人の輪を大切にされる素晴らしい方でした。御冥福をお祈りします。誠に有り難うございました。

・院号(卍卍物)料 金35万円 為 慈照院瑞誉清光良信大姉菩提 (故 逢坂 良様)
施主 逢坂 俊夫 様